

**生徒が自分から進んで取り組む
作業学習を目指して**
「単元」つるよう祭でおいしい野菜と
きれいな花苗を販売しよう！

県立鶴岡養護学校
教諭 松田貴祐

一 はじめに

本校は小学部、中学部、高等部の三つの学部からなる知的障がい特別支援学校である。今年度は、小学部四十一名、中学部二十六名、高等部四十七名、訪問教育六名の計百二十名の児童生徒が在籍している。重複障がいのある児童生徒も多く、今年度は小学部で四十三%、中学部で四十六%、高等部で四十六%を有している。障がいの重度・重複化が進む傾向にはあるが、本校では障がいの状態にかかわらず、どの児童生徒も自分から進んで取り組む学校生活づくりを目指し、「できる状況づくり」の視点から授業づくりを行い、実践を積み重ねている。

二 できる状況づくりについて

児童生徒の主体的な取り組みを支える「できる状況づくり」は大きく二つの点からなる。

(一) 学校生活全体の枠組みにかかわって

- ① 帯状の週日課：見通しと繰り返しによる定着を
- ② 生活のテーマの設定：めあてをもった学校生活に

動である製品確認や作業の確認を生徒が行う「作業班運営への参加」を通じた作業意欲の向上を目指し単元を計画した。

単元計画	主な活動内容	時数
第一次	畑グループ：種まき、畝立て、水やり、除草 草花グループ：土づくり、種まき、植え替え ・たよりの発行	16
第二次	試食・たよりの発行・販売準備	6

(二) 具体的な取組み

【その一】販売前の試食会

他の作業班のような布製品や木工製品の場合、製品の良し悪しはデザインや仕上りの具合がポイントとなり、生徒にとってはわかりにくい点がある。しかし、野菜や花の場合、「茎が折れていない」、「虫がついていない」、「食べると美味しい」といった見た目と味で生徒自身が判断すること



水菜コーンのマヨネーズあえ

とが可能である。収穫期には畑グループが畑から収穫した野菜を草花グループの生徒が教師と一緒に調理し、全員で試食をして野菜の出来栄を確認するようにした。

【その二】農芸紙より発行とおすすりレシピの作成

これまで畑グループと草花グループの作業内容はまとめる会で確認していたが、よりお互いの作業の内容を理解し、かつ農芸紙工班以外の生徒にも興味をもってもらえるように広

- ③ 中心的活動の明確化：テーマに関連する中心的な活動を「授業」づくりにかかわって

- ① 活動の選択と活動量：興味・関心や得意なことを生かして、存分に

- ② 活動の流れ：わかりやすく見通しがもてるように

- ③ 場の設定：活動しやすく、安全に

- ④ 道具・補助具：安全に、できるだけ自分で取り組めるように

- ⑤ 教師の支援：その時々の様子に合わせた支援を

本稿では、これらの視点に基づきながら、生徒主体の作業学習を目指して取り組んだ高等部での実践を紹介する。

三 実践 高等部作業学習 農芸紙工班

単元名「つるよう祭でおいしい野菜ときれいな花苗を販売しよう」

(一) 単元について

本単元は、十月初旬に行われた「つるよう祭」にむけた単元である。本校では運動会と学校祭が隔年で実施され、その中で高等部は音楽発表とバザーを行っている。隔年実施のため一、二年生は初めての取組みとなるが、一学期のハートフルバザーにむけた単元を通して、生徒は少しずつ自分の担当する作業がわかり教師や友達と一緒に畝づくりや草取り、花の植え替え作業などに取り組むようになっていた。単元のねらいの一つである「自分の作業がわかり進んで取り組む姿」は見られるようになってきたが、育てている野菜や花の出来栄え、各班の作業の進行状況などは教師が中心となって確認していた。そこで本単元では、これまで教師が行ってきた活

報係を設け、

教師と一緒に

農芸紙よりの

発行すること

にした。三名

の生徒がパン

コンを使って

作成し、単元

終了時まで六

枚のたよりを

発行した。また、試食会後には生徒が食べて美味しいと感じたレシピを「おすすりレシピ」として教師と一緒に作成し、バザー当日会場に掲示したりお客様に配布したりした。

四 単元を終えて

本単元では「生徒の作業班運営への参加」を目指し、できる状況づくりの視点から授業改善を行った。中でも農芸紙よりの発行は生徒の作業内容や製品、活動についての理解を深めるきっかけとなり、班内の生徒や教師だけでなく、他の作業班の生徒、教師とも収穫や試食、その日の作業などについて話す様子が見られた。また、つるよう祭二日目のバザーでは、これまで「いらっしやいませ」だった挨拶が「おいしい野菜いかがですか。」と実感を伴う挨拶に変わる生徒もいた。作業学習ではよりよく働くことが大切であり、それらは製品づくりと販売活動から得られる自信に支えられるところが大きい。今後でもできる状況づくりの視点で支援を考え、生徒

がよりよく働く姿の実現を目指して努力していきたい。

